

分担研究報告書

英国の医療機関における
インфекションコントロールナースの活動調査

英国の医療機関におけるインフェクションコントロールナースの活動調査

主任研究者 宮崎美砂子 分担研究者 牛尾裕子 千葉大学 看護学部

英国の医療機関において院内感染対策を管理する看護師（インフェクションコントロールナース）と面会し、その活動の実際について情報収集を行った。日本ではまだ確立されていない院内感染対策における専門看護師の活動から、健康危機管理に対する看護職の役割・機能について検討した。

A. 目的

英国では、看護職の卒後教育においてスペシャリストの養成がさかんにすすめられており、インフェクションコントロールナース（ICN）もそのようなスペシャリストのひとつである。ICNは、保健局の公衆衛生部門や医療機関に所属し、感染症管理に重要な役割を果たしている。今回は、英国の医療機関におけるICNの活動の実際について情報収集し、健康危機管理における看護職の役割・機能の検討に資することを目的とした。

B. 方法

1 面会者

ロイヤルパークシャー&バトル病院NHSトラストの Senior Infection Control Nurse の Liz Jones 氏。

2 訪問日時

2003年9月2日 AM9:30-12:00

3 調査内容

トラストにおけるICNの活動の実際（院内外の関係職種等との協働など）

C. 結果

1 英国の院内感染予防対策の概要

英国では、院内感染に対して情報を統一して共有

するために国が指針を出し、各病院で院内感染対策委員会（ICC：Infection Control Committee）と感染管理チーム（ICT：Infection Control Team）を設置するように勧告している。ICCの構成メンバーは、ICTと経営管理責任者、看護部長、感染管理専門医（CCDC：Consultant in Communicable Disease Control）などである。ICTは、感染管理医師（ICD：Infection Control Doctor）と、ICNから組織されている。つまり、ICNは看護部から独立した立場にある。

また、院内感染対策委員会の構成メンバーであるCCDCは、地域及び病院において感染症に関わる必要事項の確保に全般的に責任を負っており、そのポストは英国保健省の長の直轄となっている。CCDCの行政上の責務は、地域や病院で地域全体に関わる感染症の集団発生が起こったときの管理・監督等の運営上の責務及び感染性疾患のサーベイランスや政策開発などの戦略的責務である。すなわち、院内感染対策委員会は地域の感染管理システムの一部に位置づいている。

2 ロイヤルパークシャー&バトル病院NHSトラストの概要

ロイヤルパークシャー&バトル病院NHSトラストは、1993年にロイヤルパークシャー病院とバトル病院が合併したもので、テムズバレー保健局（Health Authority）の管轄地域に設置さ

れている。ロンドン郊外（鉄道で1時間程度）の西パークシャー地域の住民に対し急性期ケアを提供しており、他にも様々な専門サービスを広く提供している。1日平均外来患者数1250、同じく予定手術患者数100という大規模な医療機関である。

2 ロイヤルパークシャー&バトル病院NHS トラストの院内感染対策組織

1) 感染管理委員会 (ICC)

ICCは、トラストの感染管理に関する戦略上の方向性の設定に全般的な責任を負う。委員会は年4回開催される。その役割は、感染管理方針及び基準、実践の手順と規約を検討し確実にすること、感染症集団発生時の管理監督計画への同意、地域における重大な感染症集団発生へのトラストによる対応計画への同意などである。メンバーは以下の通りである。

ICC メンバー：

- ・臨床サポートサービス部門の長（委員長）
- ・経営管理責任者（CE）
- ・微生物学教室顧問及び感染症管理専門医
- ・微生物学教室顧問及び公衆衛生研究室長
- ・外科及び女性医療サービス部門顧問代表
- ・内科部門顧問代表
- ・職域保健医顧問
- ・ICN
- ・手術部門の長
- ・リスクマネージャー／健康安全アドバイザー
- ・看護部長
- ・施設部門の長
- ・CCDC（パークシャー保健局）
- ・パークシャー共同サービス組織代表

2) 感染管理チーム (ICT)

ICTは、微生物学医師でもある感染管理医師 (ICD) 1名とICN1名によって組織され、トラストの感染サーベイランス、予防、管理のすべての面において、日々主要な責任を担っている。その役割は、年間の感染管理プログラムと施策を実行すること、感染予防と管理において24時間態勢での医療的・看護的決定を実行することである。

ICTは、感染症患者及びその他の感染管理に関わる問題への対応に関わるすべての階級のスタッフへ助言を提供する。その他、CCDCなどと協働で感染症集団発生の特定制と管理、感染症サーベイランスを含むトラストの年次活動計画の作成とICCが示す達成目標に対する年次報告書の提供、トラストのすべてのスタッフへの教育の提供、スタッフの健康に関する西パークシャー職域保健サービスとの連携、臨床部門とサポート部門の定期監査などの役割を担っている。

3 ICNの活動の実際

英国の多くの病院でそうであるように、ロイヤルパークシャー病院においても、ICNは臨床微生物学教室の所属で、微生物検査部と密に連絡を取れる立場にあった。ICTはその役割の一環で下記a)~h)に示すような感染管理のための実践の規約を作成し、提供している。下記のb)及びe)は、ICNであるJones氏が編集を担当しており、h)については、感染管理医師である微生物学専門医と共同で編集に携わっていた。

ICNはつねに感染に関して最新の情報を収集することが必須であり、微生物検査部との密な連絡により、院内の感染症の発生状況等を常に把握することができる。また、最新の情報に基づいた院内のスタッフに対する感染症予防教育においては、トラストのスタッフのみが閲覧可能な電子媒体の活用により、最新の情報をわかりやすい形で提供することを積極的に行っていた。

院内を案内されたときには、各病棟のスタッフに親しく声をかける様子、入院中の患者についての説明の様子から、各病棟のスタッフや入院患者の情報をよく把握しており、病棟スタッフとの信頼関係も形成されている様子が伺えた。

<収集した文献等>

当該NHSトラストにおける院内感染管理チームが作成した院内感染対策方針文書と実践規約 (Code of Practice) の一部である。

(1) Risk Management Policy

- a) INFRCTION CONTROL POLICY
(感染管理指針)
- (2) Control of Infection Code of Practice
- b) SURVEILLANCE & AUDIT POLICY
(サーベイランスと監査方針)
- c) TUBERCULOSIS CONTROL PLAN
(結核管理計画)
- d) CONTROL OF METHICILLIN RESISTANT
STAPHYLOCOCCUS AUREUS (MRSA)
(MRSA の管理)
- e) RETURN OF INSTRUMENTS &
HOLLOWARE TO HAYS CLINICAL SUPPORT
SERVICES, BATTLE HOSPITAL
(器具及び容器のヘイズ臨床サポートサービ
スへの返却)
- Ø SINGLE-USE MEDICAL DEVICES
(使い捨て医療器具)
- g) "Human Transmissible Spongiform
Encephalopathies(TSE s)" including
Creutzfeldt Jakob Disease(CJD)
(クロイツフェルトヤコブ病を含む人感染
性海綿状脳症(TSE s))
- h) INFECTIOUS DISEASES IN
HOSPITALS
(院内感染症)

D. 考察

英国では伝統的に感染症管理は病院が関わる問題とされてきたとのことである。そのような経緯が、院内感染対策システムの発達、地域における感染対策システムの中での現行のような位置づけにつながっていると思われる。そのようなシステムのなかで、ICN は、感染症対策の最前線で、また最新の感染症に関する専門知識を常に入手できる立場で、専門性を常に高めながら、その専門性に裏付けられてスタッフの信頼を得、役割を拡大しているようであった。管理的機能を発揮するためには、常に最新の情報・知識・技術を習得し、専門性を高めることが、必須条件と思われた。

参考文献

- 1) J Lawrence, D May ; Infection Control in the Community, CHURCHILL LIVINGSTONE, 2003.
- 2) P M Craig, G M Lindsay ; Nursing for Public Health, CHURCHILL LIVINGSTONE, 2000.
- 3) 波多江新平他 ; 海外における ICD・ICN, INFECTION CONTROL, 9(10), p18-23, 2000.
- 4) 清水佳子 ; イギリスで活躍する ICN, 別冊医学のあゆみ, p28-32, 2000.

分担研究報告書

台湾の健康危機管理体制における
公衆衛生看護職の役割と教育研修体制

台湾の健康危機管理体制における公衆衛生看護職の役割と教育研修体制

分担研究者 春山 早苗 自治医科大学看護学部

研究要旨：日本の健康危機管理において保健所保健師が果たすべき役割・機能や教育研修体制について示唆を得るために、SARS の集団発生への対応に関わった公衆衛生看護師等への面接調査から台湾における地域の健康危機管理体制について調べた。その結果、保健所保健師の重要な役割・機能として、平常期における国内外の感染症に関する動向や流行している感染症の情報収集、一人一人が感染症予防のためのセルフケアや環境を整えるための行動ができるようにすることとそれを推進していけるような人づくり等が示唆された。教育研修体制・内容として、連携体制づくりも意図した管内の消防部門や医療機関等における研修、医療機関や施設等の確実な感染症対策を支援できるための研修が示唆された。

研究協力者

呂 昌明 国立台湾師範大学衛生教育学系
田中 幸子 自治医科大学看護学部

A. 研究目的

本研究の目的は、台湾における地域の健康危機管理体制について調べ、日本の健康危機管理において保健所保健師が果たすべき役割・機能について示唆を得ると共に、保健師の健康危機管理に関する教育研修体制を検討するにあたっての参考資料を得ることである。

B. 研究方法

1 調査対象

重症急性呼吸器症候群（以下 SARS とする）の集団発生への対応に関わった台北市 A 区、B 区衛生所（保健所）それぞれの公衆衛生看護師 2 名、行政院衛生署疾病管制局結核予防係職員。台湾における衛生行政組織を図に示す。

疾病管制局(Center for Disease Control Taiwan) は、伝染病の脅威と闘うために、疾病コントロールシステムの計画や関係法規の立案、様々な伝染病の予防・コントロール・調査研究、疾病発生の管理、国内の疾病情報や疾病サーベイランスの報告、国外の疾病の情報収集や情報

交換、ワカチに関すること、空港や港の検疫や衛生監視、事業所の衛生指導、外国人の健康管理等の機能をもつ機関である。

2 調査項目

- 1) SARS 対応における公衆衛生看護師の役割・機能。問題や新たな課題が生じたか、公衆衛生看護師の役割・機能の見直しがなされたか。
- 2) 健康危機管理に関わる公衆衛生看護師への教育研修体制・内容。誰が企画し、どのような内容・方法で実施しているか。SARS 対応後、公衆衛生看護師への教育研修内容・方法の見直しがなされたか。

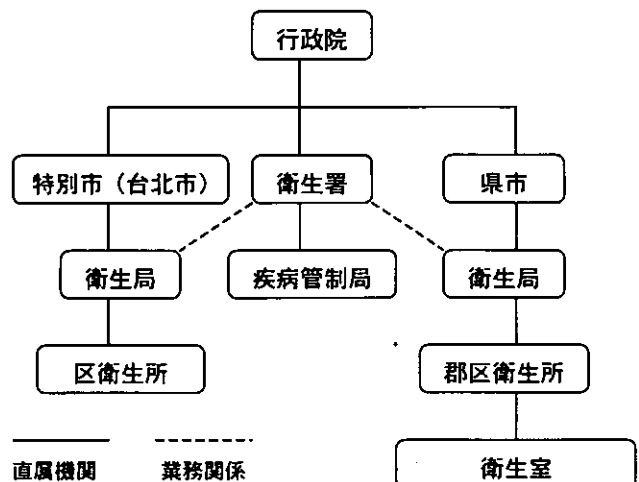


図 台湾における感染症に関わる衛生行政組織

3 調査方法

2 調査項目 1) 2) について、面接調査により調べる。

4 分析方法

2 調査項目 1) 2) から、日本の健康危機管理において保健所保健師が果たすべき役割・機能、並びに、保健師の健康危機管理に関する教育研修体制・内容について示唆を得る。

(倫理面への配慮)

国立台湾師範大学衛生教育学系 呂 昌明教授を通じて、研究対象者へ研究の目的・内容を十分説明し、研究協力への同意を得た。また、調査対象者個人が特定できる表記は報告書において用いないことを約束した。

C. 研究結果

1. SARS の発生に関わる公衆衛生看護師の役割・活動内容 (表 1)

台湾では、SARS 患者の第一報を受理すると、家庭訪問や電話連絡等により接触者調査を実施、A 級、B 級隔離対象となる接触者を決定して、その接触者の支援をしていくという一連の過程を、公衆衛生看護師が中心となり自立して展開していた。助言・相談がある場合には、衛生局または疾病官制局に求めており、指示命令系統の不明確さによる混乱等はみられなかった。SARS 発生以前から、感染症に対する対応は同様であり、「SARS ウィルスやその感染経路が不明確であることにより活動に迷いが生じた部分もあったが、それ以外は他の感染症に関わる活動と同様であり、SARS であることによる困難はそれ程感じなかった」と公衆衛生看護師は述べていた。また、日常的に国内外の感染症に関する情報を収集・分析しているので、そのことが的確な情報を収集し、それに基づき活動することや、必要な情報を関係機関や住民に提供していくことに生きていたと感じた。

対応期においては、二次感染予防のために、隔離対象となる接触者を監視するような役割も担っていたが、重視していたことの一つには患者と

その家族の人権擁護や個人情報の保護があり、これは日本の保健所保健師と同様であった。その他、接触者への健康生活支援や、恐怖心による差別や住民の混乱を防ぐための住民への教育、SARS を恐れ通院困難となった人々の医療の確保等を担っていた。また、費用や人、必要な物資を準備し活動体制をつくっていくことも公衆衛生看護師の重要な役割であった。「SARS 発生当初はそれらの不足のために大変困った」と公衆衛生看護師は述べていたが、人については、区役所や行政区長、教会関係者、ボランティアの協力を得て活動していた。また、疾病官制局の職員と共に医療機関における感染症対策の指導を担っていた。

公衆衛生看護師は、「衛生行政機関だけの問題ではなく、すべての医療機関や関係機関、国民一人一人の意識が変わらないと感染症を防ぐことはできない」と述べていたが、平常期は学校における教育や、環境の改善と住民の理解を得るための感染症に関するボランティアの育成といった、人々が感染症の理解を深め、感染症を防ぐためのセルフケアや環境を改善するための行動ができるような予防的活動をしていた。

2. 台湾における健康危機管理に関わる公衆衛生看護師への教育研修体制・内容 (表 2)

台湾における健康危機管理に関わる公衆衛生看護師への教育研修は、主に衛生局と疾病官制局により実施されていた。疫学に関する研修、国内外において問題視されている感染症や世界情勢から発生の可能性が否定できない健康危機等に関する研修、医療機関における感染症対策を指導できるための研修が行われていた。また、自然災害については、消防署や医療機関における研修、詳細は確認できなかったが被災地応援のための研修や、発生時の被災地における疾病官制局による教育が実施されていた。さらに、公衆衛生看護師は、SARS 発生に関わる活動を経験して、ネゴシエーション能力を高める研修や英語力を身につける必要性を感じていた。

D. 考察

結果から、日本の健康危機管理において保健所保健師が果たすべき重要な役割・機能として、以下のことが示唆された。

・平常期における国内外の感染症に関する動向や流行している感染症の知識を得て、感染症の予防活動に活かしていくと共に、いつどのような形で国内に持ち込まれるかわからない感染症の発生に備えておくこと。

・市町村保健師や教育部門、労働部門等との連携により、国民一人一人が感染症への関心を高め、感染症予防のためのセルフケアや環境を整えるための行動ができるようにすること、またこのようなことを地域社会生活の中で推進していきけるようなボランティア等の人づくりをすること。このことは、万が一感染症が発生した場合、人々の過度な恐怖心による混乱や患者とその家族、医療従事者等への差別を防ぐことにつながり、また感染症発生への対応期における保健師と住民との協力体制づくりにもなると考える。

・平常期において、医療監視等の機会を積極的に活用して、医療機関や施設等の感染症対策を確実なものにしていくこと。このことは、感染症が発生した場合、医療従事者等への感染拡大を防ぎ、医療従事者が安心して働けるために重要であり、保健所保健師の役割は大きいのではないかと考える。

次に、保健所保健師の健康危機管理に関する教育研修体制・内容として、以下のことが示唆された。

・管内の消防部門や医療機関等における研修。消防部門は防災のプロであり、健康危機への対応について学んだり、医療機関においては救急時の対応について学んだりできる。また、このことは、管内の消防部門や医療機関等の健康危機発生時の対応を知る機会になったり、健康危機管理における保健所、消防部門、医療機関等各々の役割分担等について共に考えたりする機会にもなり、健康危機管理における連携体制づくりにもつながると考える。

・保健所保健師が果たすべき重要な役割・機能で述べたことと関連して、感染症対策を確実なものにしていきけるよう医療機関や施設等を支援できるための研修。医療機関や施設等の感染症対策において必要なことを理解し、保健所保健師が相談・助言できるための研修が必要であると考え。

E. 結論

日本の健康危機管理において保健所保健師が果たすべき重要な役割・機能として、平常期における国内外の感染症に関する動向や流行している感染症の情報収集、一人一人が感染症予防のためのセルフケアや環境を整えるための行動ができるようにすることとそれを推進していきけるような人づくり、医療機関や施設等の感染症対策を確実なものにしていくこと、が示唆された。健康危機管理に関する教育研修体制・内容として、連携体制づくりも意図した管内の消防部門や医療機関等における研修、感染症対策を確実なものにしていきけるよう医療機関や施設等を支援できるための研修が示唆された。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

表1 SARSの発生に関わる公衆衛生看護師の役割・活動内容

<p>1. A区衛生所公衆衛生看護師のSARS発生に関わる活動</p> <p>①公衆衛生看護師の経歴：病院看護師経験10年 現勤務経験13年 ②衛生管轄人口約31万人、公衆衛生看護師24名</p> <p>③A区衛生所における業務担当：伝染病予防担当</p> <p>④SARS発生時の公衆衛生看護師の役割・活動内容：</p>	
<p>●初動期</p>	
SARS患者の把握	・疑いを含むSARS患者の連絡が病院から衛生局を経由して衛生所にくる。
初動調査：直接及び間接接触者の調査	・居住する家における隔離を必要とする、疑いを含むSARS患者との直接接触者（A級隔離者：原則として家からの外出を禁止され、どうしても外出を要する場合には衛生所の許可を得て、マスク着用にて外出、公共交通機関の利用は禁止）と間接接触者（B級隔離者：マスク着用の上、通院、運動、新聞等の購入、ゴミ出し、その他衛生所の同意が得られた理由による20分以内の外出のみ許可。外出した場合は外出記録をつける。公共交通機関の利用、お見舞い、人の多い場所への出入りは禁止）となる対象を一人一人調査により決定する。接触者をどの範囲までにするかという判断は、国の基準、例えば患者の発熱時に接触した場合は隔離対象となるが、熱がない時に接触した場合は隔離対象とならない、患者が飛行機に乗っていた場合、後部座席に座っていた者は隔離する、室外は関係ない、マスクをしている場合はOK等、国の細かな基準があり、それに沿って行うので難しくはない。感染経路が不明確であったため、感染拡大を防ぐために、WHOよりも高い水準の基準が設けられている。
患者管理	・直接接触者、間接接触者については、衛生所で名簿を作成する。
<p>●対応期</p>	
接触者の健康調査と二次感染予防のための対応	・接触者は外出できないため政府が用意した弁当を持って家庭訪問をする。その際に、健康状態を把握すると共に、二次感染予防のために直接、間接接触者がそれぞれ隔離規定を守っているか確認する。
区役所との協働	・接触者への家庭訪問において、患者数が少ない場合には衛生所ですべて対応するが、患者数が増えたら区役所職員の協力を得る。
人権擁護と個人情報の保護を重視する対応	・最も重要な役割は、どこの誰が感染したとか情報が漏れないように患者のプライバシーを守ること。そのためには、家族も守らなくてはならない。接触者の隔離は家族のプライバシーを守るためでもある。
(マスコミへの対応)	・接触者への家庭訪問の際に新聞記者がついてきたりすることがあるが、絶対に接触しないようにしている。マスコミによる報道の良い面は、広報宣伝活動等教育になること。しかし、住民のプライバシーを守らない、正確な情報ではない等悪い面が多い。
接触者への生活支援	・衛生所の接触者名簿を市の社会局に出すと、1人1日500円(1,500~1,700円)が各人の銀行口座に振り込まれ最低限度の生活の保障がなされる。SARSに関連した患者、接触者等の生活不安に対し、SARSに限って特別な措置がなされた。
<p>●終息後の平常期</p>	
学校における予防教育	・台湾では、学校に学校看護師もいるし、健康教育担当の教員もおり、EIZ等の予防教育を行っている。同様にSARSについて行っている学校もある。実際は、SARSは新しい感染症であるので、衛生所の公衆衛生看護師がよくわかっているから、衛生所の公衆衛生看護師が学校に入って子どもたちに教育したり、また学校看護師を教育し、学校看護師が各学校で予防教育が行えるようにしている。
<p>○それまでの感染症に関わる活動がどう活かされたか？</p> <p>・SARSは感染経路やウイルスの性質が不明であったためそれまでの仕事とは異なる迷いがあったが、日常業務において新聞やインターネットから国内外の感染症に関する情報を収集・分析しているの、今回も同様に情報を収集し、感染症の動向を監視し、それに基づいて活動していったり、情報を伝えていったことにより、住民の協力が得られ行政と一丸となり、SARS終息につながった。SARS終息までの期間は、通常業務はすべてやめ、SARS対策に100%時間を費やした。</p>	
<p>○SARS対応後、新たな問題や課題が生じたか？</p> <p>・感染症対策は、衛生行政機関だけの問題ではない。すべての医療機関や関係機関はもちろんのこと、国民すべての意識が変わらなければ衛生行政機関だけに任せていたのでは感染症を防ぐことはできない。実は、SARSの一番最初の患者がでた病院では感染拡大を懸念してきちんと対応策を講じている。しかし、他の病院では、他の病院のこと、うちの病院には関係ないと予防策を講じなかった。感染症の発生には、すべての医療機関、国民一人一人が関心を向け、予防策を講じていかないと、すぐに感染拡大につながると思う。</p>	
<p>2. B区衛生所公衆衛生看護師のSARS発生に関わる活動</p> <p>①公衆衛生看護師の経歴：小児看護師経験7年 現勤務経験14年 ②衛生管轄人口約24万人、公衆衛生看護師16名</p> <p>③B区衛生所における業務担当：予防保健課</p> <p>④SARS発生時の公衆衛生看護師の役割・活動内容：</p>	
<p>●初動期</p>	
SARS患者の把握	・病院からの連絡が52名、内5名が患者、残りは疑いであった。
初動調査：直接及び間接接触者の調査	・直接接触者（A級隔離者）は906名、間接接触者（中国大陸から帰った人等で10日間の隔離を必要とするB級隔離者）1162名。
<p>●対応期</p>	
住民の理解を得るための働きかけ	・あちこちの病院でSARS患者の収容が難しくなったので、元々はSARSとは関係のなかった区内の病院の病棟を陰圧式の病棟に改造してSARS患者を収容することになった。住民からの反対がでないように、消毒や体温計、マスクを配布してSARSに対する理解を深めるための教育を行った。
SARS予防のために必要な物品の調達	・SARS予防のために必要なマスク等の物品をあちこちから集め調達した。一番困ったことは、金がない、人手が足りない、マスク等の物資が足りないということだった。
接触者の健康調査と二次感染予防のための対応	・接触者へは家庭訪問により弁当を配布したり、体温を測るなど健康状態を把握したり、住んでいる環境や人とのつながりをした。二次感染予防のために、外出せずに家にいるか抜き打ちの家庭訪問を行ったりもした。

表1 SARSの発生に関わる公衆衛生看護師の役割・機能（つづき）

里の行政管理者、区役所、教会関係者との協働	・SARS患者を収容することになった病院の周辺には9つの里（日本でいう行政区）があり、マダカ等の物品の配布には里の行政管理者（日本でいう行政区長9の協力を得て各家庭に配布した。また、抜き打ちの家庭訪問については区役所職員の協力を得た。物資の調達についてはキリスト教や仏教の大きな教会の人に車をだしてもらった等の協力を得た。接触者の体温を測る等健康状態の把握について最も協力を得たかったが恐怖心があり協力は得られなかった。
感染症の影響により通院が困難になった人々の医療の確保	・区内の病院が突然SARS専門病棟をもったことから、一般患者の外来診療は中止となり、通院していた多くの高齢者は通院できなくなった。よって、他の病院に連絡相談して通院できるようにしたり、また区内の病院に特別出入り口を設けてもらい薬だけでももらえるようにした。そうしても、高齢者自身がSARSを恐れて区内の病院に行けない場合には、ボランティアに頼んで薬を配ってもらったりした。

●平常期

伝染病予防のための環境の改善や住民の理解を得るための伝染病に関するボランティアの育成	・SARSではないがデング熱の発生の時、ボランティアを育成して、水が溜まっている場所等地域の衛生状態を調べてもらったり、何かあった場合には連絡してもらったりした。看護師が住民に理解してもらいたいことをボランティアに伝え、ボランティアが地域住民に伝えるといった住民と行政の橋渡しの役割を担ってもらった。ボランティアへの教育プログラムは1日半でデング熱の症状や感染経路を教える。終了後、看護師と共に地域をまわる実習を2～3週間行う。その間、デング熱を媒介する蚊を見分けられるか等のチェックを看護師は行う。伝染病に限らず、ボランティアは約400名いるが、活動をするのは約100名。健康問題によってボランティアも分かれる。デング熱の場合、大人のボランティアを育成しても活動における効果が得られにくい。なぜならば、隣近所に「お宅は水が溜まっているので、対処した方がいい」等とは近所付き合いもあり、言い出しにくいし、言っても嫌がられる。よって、小学4、5年生を対象に育成している。デング熱の場合等は健康の問題であると同時に環境衛生の問題でもあるので、衛生局が教育局と手を組んで、学校の環境衛生のための環境保護の戦士という既存のグループにデング熱のことも加えてもらった。1小学校で約60名の児童が教育を受け、家に帰って「お父さん、この水溜まりはだめだよ」等と言ったり、隣近所に話をしたりすることにより効果を上げた。
--	--

○SARS対応後、新たな問題や課題が生じたか？見直された体制は？

- ・金銭面で苦労した経験から、区役所に災害特別基金が設けられ、同様の新たな感染症が発生した場合等は、その基金が使えるような契約を交わした。多くの費用ではないが、助かると思う。
- ・人的には、ボランティアの養成を進めている。しかし、ボランティアは既知の感染症に対しては恐怖心がないが、新たな感染症に対しては恐怖心があるので、難しい面がある。
- ・16名の公衆衛生看護師の仕事はあまりにも多い。B区衛生所管内には33の里があって、一人の看護師が2つの里の責任をもっている。また、予防保健課ということで、伝染病予防だけでなく、母子・成人・老人保健、予防接種やがん予防等のこともやらなければならない。何でもやるのではなく、感染症を専門とした公衆衛生看護師を数名おき、責任をもって活動した方が良く思う。
- ・医療の確保でも述べたが、SARS発生時は、多くの高齢者が感染を恐れていかなる病院に行くのもいやがり、慢性疾患を抱えている人が多いので、それまでの処方を書いて病院に郵送し、病院から薬を郵送してもらうというシステムを臨時につくったが、今後同様の状況が生じた時のために、このようなシステムを整えておく必要があると思う。

表2 台湾における健康危機管理に関わる公衆衛生看護師への教育研修体制・方法

1. A区、並びに、B区衛生所公衆衛生看護師への面接調査から	
*台湾では、3年課程の看護基礎教育の中に公衆衛生が組み込まれているので、新たに公衆衛生看護師になるための教育を積み重ねる必要はない。ただ、新卒では公衆衛生看護師にはなれない。病院等における臨床経験や学校看護師、産業看護師等の経験を1～2年積んだ後に、特別市や県の試験を受けて合格すれば衛生所公衆衛生看護師となる。	
●疫学に関する研修	・衛生局主催で、定期的（10回以上）に疫学の調査方法等
●トピックス的な研修	・不定期に、現在であれば鳥インフルエンザ、生物テロ等
●疾病官制局主催の研修	・衛生局が疾病官制局が研修を主催するが、疾病官制局主催の研修の方が多。疾病官制局主催の伝染病に関する研修は、各衛生所が必ず2～3名参加しなければならない。
●消防署における研修	・自然災害については消防署との連携が書かせず、消防署から学べる事が多い。防災訓練等も必要であり、消防署における研修がある。
●医療機関における研修	・救急医療について、医療機関における研修がある。
●自然災害発生時の疾病官制局による被災地における教育	・自然災害発生時は、疾病官制局が被災地の県市、その他応援者等関係者を集めて被災地において教育することもある。
●自然災害における被災地応援のための研修	・疾病官制局主催
●SARS発生に関わる活動を経験して必要と感じた研修	・伝染病発生の混乱しやすい状況にあっても、地域住民だけではなく、上司や衛生局と円満に問題を解決するために、人間関係やコミュニケーション（コミュニケーション）能力を育てる研修。また、英語力をつけるための研修。よくWHOの職員の講義を受けたが、英語であるため通訳はあったが、英語力があればもっと明確に理解できたと思う。
2. 疾病管制局職員への面接調査から	
●医療機関における感染症対策を指導できるための研修	・SARS流行期には、疾病管制局の職員が公衆衛生看護師と共に病院をまわり、手洗いやマスクの着用、防護服の着用方法等の感染症予防のための医療従事者の適切な行動、感染症対策のための設備の整備や物資の備蓄状況を確認し、改善指導している。2ヶ月後には公衆衛生看護師のみで、発見された問題点が改善したか点検に行っている。SARSの発生では、医療従事者の家族が地域や学校で差別を受けた。医療従事者自身も患者との関わりに抵抗があり、やめていく者もいた。その一因には感染予防のためのマスク等の物資が不足していたことがあり、医療従事者は相当恐怖を感じていた。SARS患者があちこちの病院で収容されるのではなく、病院を指定して集中収容されるようになると、物資も豊富になってきて、医療従事者の気持ちも安定してきた。医療従事者等への感染の拡大を防止し、医療従事者が安心して働けるよう支援するために、公衆衛生看護師が医療機関における感染症対策のための確認項目を理解し、改善指導できるような研修を実施している。